

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473100905	事業の開始年月日	平成17年3月1日	
		指定年月日	平成17年3月1日	
法人名	社会福祉法人 同塵会			
事業所名	日限山ホーム			
所在地	( 〒233-0015 )			
	神奈川県横浜市港南区日限山1-66-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年12月26日	評価結果 市町村受理日	平成23年3月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://centr.kaigo-kuohyou-kanagawa.jp/">http://centr.kaigo-kuohyou-kanagawa.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が、安心して穏やかに生活が出来るように心がけています。年に3回ある「観桜会」「納涼祭」「クリスマス忘年会」では、家族の方々、地域の方々をご招待して交流の場を設けています。職員の離職数も少なく、全ての職員が3年以上の経験があります。建物は、鉄筋コンクリート造りになっており、火災に対しても、燃え広がらない構造になっております。居間は、大きな窓があり、一日中日差しがあり、暖房を入れなくても暖かく過ごせます。午前には、レクリエーションを行い、夕方より歌会を毎日実施しており、入居者の方が、一日何もしないで過ごさないよう配慮をしています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年1月26日	評価機関 評価決定日	平成23年2月23日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

≪事業所の優れている点≫  
 ◇下永谷駅から7分ほど、公園に隣接した静かな環境にある。  
 ◇リビングは、南と西側の大きな窓からの日差しで明るく暖かい上、大鍋でお湯を沸かして加湿し利用者の健康に配慮している。  
 ◇町内会に加入しており、利用者はお祭りや高齢者主体の「ひまわりの会」に参加して地域との交流を深めている。  
 ◇自立度の高い利用者が多く、日中は利用者同士で話したり、職員も一緒におしゃべりを楽しみ仲良く生活している。  
 ≪事業所が工夫努力している点≫  
 ◇ほとんどの利用者は、歌が好きで毎日3時のおやつのおあと、歌謡曲や童謡、などを一緒に歌ったり、独唱して楽しんでいる。毎月、前町内会長の発案で始まった「歌の会」がありみんなで歌を歌い、ボランティアによるシャンソンや楽器演奏も利用者の憩いのひと時となっている。  
 ◇事業所主催の観桜会、納涼祭、年末のクリスマス会は、事業所の屋上に家族の他、地域の人達も参加して賑やかに行っている。  
 ◇利用者は、廊下で歩行訓練をしたり、散歩代わりに屋上で体操をし、野菜作りで外気浴をして体力の維持に努めている。  
 ◇毎日、利用者と一緒に事業所内のモップがけや、外気浴を兼ねて外路掃除をしている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けての関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	日限山ホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
	○	2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
	○	2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	○	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
	○	2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
	○	2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の人達が、近隣住民の人達の関わりを持つようにスタッフは、サポートしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間の尊厳を大切にし、ゆっくりと楽しく一緒に暮らせるホーム」の理念を活し、更に地域社会と協力しての環境づくりなど、5項目を挙げて、各階の事務室に掲示している。</li> <li>・毎月のカンファレンスで理念を確認し、職員間で共有し実践している。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の方を通じて、自治会の集いに参加したり、近隣の住民の方々にホームの行事を伝えたりして交流を持つようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に加入し、お祭りや高齢者の「ひまわりの会」に参加している。</li> <li>・事務所の行事、観桜会、納涼祭、クリスマスには地域の人達も参加して、利用者で交流している。</li> <li>・歌や踊りの会、楽器演奏、折り紙などのボランティアを受け入れており、幼稚園の運動会にも招待されている。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の方々と住民が交流して、歌を歌ったり、折り紙を折ったりする事により、日限山ホームの状況を見てもらうようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ホームで行っている様々な事柄について報告しています。メンバーの方からの質問に対して、改善できるものは、対応していきたいと思っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の代表、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員が参加して3か月をめぐりに開催している。</li> <li>・事業所の現状報告の後、運営について意見交換し、また、防災への対応、小学生との交流などについてを話し合っている。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告書を提出して、連携を持つようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議開催の都度、区の担当者に報告している。</li> <li>・健康福祉局からの情報を得て、職員が研修に参加している。</li> </ul>	

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前面道路の車両の交通量が多いことより事故の危険があるため、外に出してしまう入居者がある場合は、やむを得ず玄関の施錠をすることもあります。	・法人研修で、身体拘束を行わないケアを習得し、職員間で共有して実践している。 ・玄関が交通の激しい道路に面しているため、家族の了承を得て施錠している。また目が離せない人がいるため、ユニットの出入口も施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的虐待がおきないように、職員間で余裕をもってケアを行うこと意識して業務にあたってもらっています。研修を受けた特には、カンファレンスの際に報告し、確認し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自治会で行っている研修会に参加し、他のスタッフに報告するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に、書面に沿ってを説明は行っています。また、家族との信頼関係を築けるよう入居後は、入居者の状況、ホームの理念はよくお伝えしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族の意見は、ホーム長、副ホーム長に集約し、スタッフに発信するようにしています。	・家族の来所時に、ホーム長、副ホーム長が話しかけ、意見や要望を聞いており、検討の結果内容に応じて運営に反映している。 ・意見箱を設置しているが、十分に活用されるまでには至っていない。	・家族が、意見や要望を気軽に話せるよう、また、家族間でも交流出来るよう、家族会の開催について検討されることが期待されます。

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを開き、入居者の処遇以外にも意見を聞く機会を設け、職員間で対応出来るものは、その場で対処しています。	・毎月のカンファレンスのおり、職員から意見を聞き、日常のケアに活かしている。 ・行事の運営要領やケアの方法などについては、その都度、職員の意見を入れて実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	幹部会を設けて、様々な課題について議論しています。その内容については、カンファレンスの際に、ホーム長より職員に対し報告しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの様々な企画について代表者より承認を得てもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列施設の研修に参加するを行っています。また、実習生の受け入れも行っていて、他施設の情報も得ています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話を聞く場面を作って信頼関係を築くようにしています。		

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画に要望を記載して、承諾を得ています。また、入居当初は、生活の状況を適時報告するよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画を作成して、サービス内容について家族に承諾してもらうようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	指示はしないような声かけを心がけています。カンファレンスで定期的に、声かけに気を付けるよう確認合っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の方のより所は家族であるため、外出、外泊を通じて家族内での交流を支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方には、利用者の方が一番会いたいのは家族の方であると伝え、頻繁に面会に来て欲しいと伝えています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族には、出来るだけ面会に来て頂けるよう依頼するとともに、利用者の知人の来訪を歓迎している。</li> <li>・お墓参りやカラオケ、集会、美容院など、馴染みの場所への訪問には、家族に対応してもらっている。</li> </ul>	

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりことがあった時には、スタッフは自然に関係が持てるようにサポートをするように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣に家族が住まれていることも多い。また、系列の特別養護老人ホームへ転居する入居者が多いため、顔を合わせると近況を伺う関係の場合もあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の方が要望する事に対して出来る限り対応するようにしています。	・入居時に利用者や家族の要望、意向を把握すると共に、日常生活の会話や、入浴時のおしゃべりの中から、利用者個々の思いを把握している。 ・表現が困難な利用者には、ゆっくり声掛けをして、様子や表情から汲取るようにしている。	入居時のアセスメントに、利用者の生活歴を把握する項目を入れて、入所後の生活に活用されることが望まれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から、入居以前の生活を聞き、ホームでの暮らしに活かせるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	些細な変化についても、スタッフからホーム長、副ホーム長に話しが上がるよう体制になっています。また、午前中にはバイタルチェックを行って、血圧、体温の変化も日々確認しています。		

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回行っているカンファレンスでは、悩んでいることも項目としてあげ、意見を出し合っています。定期的に年3回介護計画を作成し、入居者、家族の方に確認し承諾いただいています。	・入居後の1～2か月、利用者の様子を見て、カンファレンスで検討して介護計画を作成している。 ・毎月のカンファレンスでケアプランを見直し、3か月毎に更新し、家族の承認を得ている。状況の変化時には、その都度、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、状況変化を記載しています。また、スタッフから責任者の方へ報告、提案があり、判断して家族連絡、職員への情報を伝達しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一番に考えているのは、入居者本人の状況変化によって、病院に通院したり、気分転換を図れるような対応を素早く行えるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日限山地区の集いに参加したり、港南幼稚園の運動会を見学したりして入居者の方が楽しんでいただけるような機会を作っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日限山ホーム担当として提携病院(長田病院)の医師が対応しています。そのため、適切な判断が受けられると思っています。	・ほとんどの利用者は、協力医を主治医とし、必要に応じて往診をしてもらっている。従来のかかりつけ医に受診を希望する場合は、家族に対応してもらっている。 ・歯科医が毎週、来所し、治療、口腔ケアを行なっている。	



日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間時や緊急時は、提携病院(長田病院)の看護師に連絡を入れ、状況報告及び対応の確認、受け入れの調整をしています。提携病院の医師が定期的にホームへ往診に来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院(長田病院)の医師と連携を取って情報を得ています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携病院(長田病院)の医師の判断により、ホームで生活が出来るか指示を受けています。現時点では終末期の対応は行わず、病院へ入院することを家族には勧めています。また、入居時には、特養の申し込みをしてもらうようお願いします。	・法人の方針で看取りは行わないことを入居時に説明し、重度化した場合は、特別養護老人ホームへの入所や、入院を勧めている。6年間で法人の特別養護施設に入所された利用者は1件であり、入院後、退居される方が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時が発生したときに対応できるようにマニュアルを作成し、スムーズに病院へ搬送する対応が出来るようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	開所当初より年2回の防災訓練を実施しています。その際には、地域住民、消防署の方々にも参加してもらっています。また、自治会が主催する災害時訓練にもスタッフが参加しています。	・年2回、消防署の指導のもと、利用者、地域の方の参加も得て防災訓練を行なっている。夜間想定した訓練も実施している ・職員は、自治会の避難訓練に参加している。 ・水、食料の他、防災用品を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	かしこまった会話ではなく、年長者に対して自然体の声かけをしています。触れないくない話題は、スタッフ間で共有してしないようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針と、ホームの理念を職員に意識付けし、「接遇マニュアル」に基づいて、プライバシーに関する研修を行っている。</li> <li>・カンファレンスでは命令口調や「ちゃん付け」等を戒めている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが今してもらいたいことも、拒否があったときは無理をせず、焦らずに対応することで、利用者本人が自分の意志で動くことが出来る余裕を作るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや歌会を毎日実行していますが、入居者本人が参加を望まない時は、無理に参加することなく、本人の行いたいことを行ってもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、カットボランティアの訪問があり。散髪を行っています。また、入居者の方によっては、近所の美容院へ付き添って行くこともあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は業者の食材で作っていますが、誕生日や月に幾度かは普段食べられない食事を作っています。毎食後、片付けを手伝っていただいています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メニュー、食材は業者から調達し、職員が調理している。利用者はもやしのひげ取りや食後の片付け等を手伝っている。</li> <li>・おにぎりを作って外出したり、誕生日には希望を聞いてちらし寿司やまぐろの握り寿司なども作っている。</li> </ul>	

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の食材を利用して食事を提供していますことから、栄養バランスの片よりは少ないと考えます。嚥下書害のある方には刻み食を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをしてもらっています。入居者自身がしっかりと磨けない場合は、スタッフが仕上げ磨きをしています。また、週に1回訪問歯科があり、ケアをしてもらっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	限られた人手の中で、出来る限りトイレでの排泄、排尿するようにしています。また、便意、尿意がある方は、訴えた際手早くトイレに行っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導に活かしている。夜間オムツを使用する人も日中はパンツで過ごせるように支援している。</li> <li>トイレ誘導では大声で誘わないように心がけ、別の用事を設けて誘ったりしている。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘の方は、薬を使用する対応をしていますが、毎日ヨーグルトを提供したり、水分を多く取ってもらうよう声をかけたりしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則は、曜日を決めて週3回昼食後に入浴していただいています。体調により入浴間隔が開いた場合は、調整して指定日以外に入浴する対応もしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>週3日、午後の入浴としているが通院のときは、入浴日を変えている。</li> <li>入浴のない日には足湯を行ったり、シャワー浴を行い、柚子湯、菖蒲湯、ミカン湯などを楽しんでいる。</li> <li>浴槽は低く出入りしやすく、三方が空いていて介助もしやすい。</li> </ul>	

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通して、穏やかに過ごせるようにしています。椅子に座って眠られる方もいます。コーヒーを飲むことを喜ばれる方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院より出ている薬の説明書は、一冊にまとめてスタッフがいつでも確認出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることはお願いしてスタッフと一緒に参加してもらっています。洗濯物干し、衣類たたみ、食器の片付けなど日常的にかかわってもらっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の方の気持ちが不安になり、気分転換をしたいときは、屋上に行くことがあります。また、地域の集いのときは、一部の入居者の方をお連れしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回は近くの公園等に出かけ、天気がよい日はベランダや屋上に出て外気浴をしたり、プランターで野菜栽培を楽しんでいる。</li> <li>・法人の送迎バスで花見やドライブに行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の気分転換、健康維持のためにも日中の散歩等の外出が望まれます。外出支援を対象としたボランティアを募集されることが期待されま</li> </ul> す。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のお金の管理が出来る入居者に限られますが、希望により一緒に買い物に出かけることをしています。		

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より許可を得られた時は電話をかけたり、携帯電話の使用しています。手紙の書くことがない入居者の方には、年賀状を書いてもらい、家族に送ることもしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きな窓があり、一日中、日が差し込めています。極力空調は使用せず、自然に近い気温の中で、着る服を調整してもらっています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居間は、日当たりがよく横になれる畳敷きの上がりも保されている。</li> <li>・日中は空調が要らないが大鍋に湯を沸かして湿度を保っている。</li> <li>・入居者は殆ど出てきて職員と合唱や会話をしたり、ホーム購読の新聞を読む人もある。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、食事用テーブル、ソファ、可動畳を配置して、入居者各々が好きな場所で過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときに、家で使用していた家具や道具を持ってくるようお願いしています。テレビ、ソファ、冷蔵庫等も好きなものを持ち込んでもらっています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備付けの電動ベッドは体に合せて昇降、傾斜ができる。</li> <li>・馴染みのテレビ、仏壇、イス等を持ち込み、趣味の楽器を楽しむ人もいる。</li> <li>・ベランダ側は掃出し窓で直接出入りができるので、プランターで草花を栽培をしている利用者もいる。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリー対応となっており、入居者の方は自由に移動できるようになっています。		

事業所名	日限山ホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の人達が、近隣住民の人達の関わりを持つようにスタッフは、サポートしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の方を通じて、自治会の集いに参加したり、近隣の住民の方々にホームの行事を伝えたりして交流を持つようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の方々と住民が交流して、歌を歌ったり、折り紙を折ったりする事により、日限山ホームの状況を見てもらうようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ホームで行っている様々な事柄について報告しています。メンバーの方からの質問に対して、改善できるものは、対応していきたいと思っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告書を提出して、連携を持つようにしています。		

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前面道路の車両の交通量が多いことより事故の危険があるため、外に出てしまう入居者がある場合は、やむを得ず玄関の施錠をすることもあります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的虐待がおきないように、職員間で余裕をもってケアを行うこと意識して業務にあたってもらっています。研修を受けた特には、カンファレンスの際に報告し、確認合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自治会で行っている研修会に参加し、他のスタッフに報告するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に、書面に沿ってを説明は行っています。また、家族との信頼関係を築けるよう入居後は、入居者の状況、ホームの理念はよくお伝えしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族の意見は、ホーム長、副ホーム長に集約し、スタッフに発信するようにしています。		



日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的カンファレンスを開き、入居者の処遇以外にも意見を聞く機会を設け、職員間で対応出来るものは、その場で対処しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	幹部会を設けて、様々な課題について議論しています。その内容については、カンファレンスの際に、ホーム長より職員に対し報告しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの様々な企画について代表者より承認を得てもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列施設の研修に参加するを行っています。また、実習生の受け入れも行っていて、他施設の情報も得ています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話を聞く場面を作って信頼関係を築くようにしています。		

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画に要望を記載して、承諾を得ています。また、入居当初は、生活の状況を適時報告するよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画を作成して、サービス内容について家族に承諾してもらうようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	指示はしないような声かけを心がけています。カンファレンスで定期的に、声かけに気を付けるよう確認し合っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の方のより所は家族であるため、外出、外泊を通じて家族内での交流を支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方には、利用者の方が一番会いたいのは家族の方であると伝え、頻繁に面会に来て欲しいと伝えています。		

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりことがあった時には、スタッフは自然に関係が持てるようにサポートをするように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣に家族が住まれていることも多い。また、系列の特別養護老人ホームへ転居する入居者が多いため、顔を合わせると近況を伺う関係の場合もあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の方が要望する事に対して出来る限り対応するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から、入居以前の生活を聞き、ホームでの暮らしに活かせるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	些細な変化についても、スタッフからホーム長、副ホーム長に話しが上がるよう体制になっています。また、午前中にはバイタルチェックを行って、血圧、体温の変化も日々確認しています。		

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回行っているカンファレンスでは、悩んでいることも項目としてあげ、意見を出し合っています。定期的に年3回介護計画を作成し、入居者、家族の方に確認し承諾いただいています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、状況変化を記載しています。また、スタッフから責任者の方へ報告、提案があり、判断して家族連絡、職員への情報を伝達しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一番に考えているのは、入居者本人の状況変化によって、病院に通院したり、気分転換を図れるような対応を素早く行えるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日限山地区の集いに参加したり、港南幼稚園の運動会を見学したりして入居者の方が楽しんでいただけるような機会を作っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日限山ホーム担当として提携病院(長田病院)の医師が対応しています。そのため、適切な判断が受けられると思っています。		

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間時や緊急時は、提携病院(長田病院)の看護師に連絡を入れ、状況報告及び対応の確認、受け入れの調整をしています。提携病院の医師が定期的にホームへ往診に来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院(長田病院)の医師と連携を取って情報を得ています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携病院(長田病院)の医師の判断により、ホームで生活が出来るか指示を受けています。現時点では終末期の対応は行わず、病院へ入院することを家族には勧めています。また、入居時には、特養の申し込みをしてもらうようお願いしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時が発生したときに対応できるようにマニュアルを作成し、スムーズに病院へ搬送する対応が出来るようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	開所当初より年2回の防災訓練を実施しています。その際には、地域住民、消防署の方々にも参加してもらっています。また、自治会が主催する災害時訓練にもスタッフが参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	かしこまった会話ではなく、年長者に対して自然体の声かけをしています。触れないくない話題は、スタッフ間で共有してしないようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが今してもらいたいことも、拒否があったときは無理をせず、焦らずに対応することで、利用者本人が自分の意志で動くことが出来る余裕を作るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクレーションや歌会を毎日実行していますが、入居者本人が参加を望まない時は、無理に参加することなく、本人の行いたいことを行ってもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、カットボランティアの訪問があり。散髪を行っています。また、入居者の方によっては、近所の美容院へ付き添って行くこともあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は業者の食材で作っていますが、誕生日や月に幾度かは普段食べられない食事を作っています。毎食後、片付けを手伝っていただいています。		

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の食材を利用して食事を提供していますことから、栄養バランスの片よりは少ないと考えます。嚥下書害のある方には刻み食を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをしてもらっています。入居者自身がしっかりと磨けない場合は、スタッフが仕上げ磨きをしています。また、週に1回訪問歯科があり、ケアをもらっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	限られた人手の中で、出来る限りトイレでの排泄、排尿するようにしています。また、便意、尿意がある方は、訴えた際手早くトイレに行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘の方は、薬を使用する対応をしていますが、毎日ヨーグルトを提供したり、水分を多く取ってもらうよう声をかけたりしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則は、曜日を決めて週3回昼食後に入浴していただいています。体調により入浴間隔が開いた場合は、調整して指定日以外に入浴する対応もしています。		

日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通して、穏やかに過ごせるようにしています。椅子に座って眠られる方もいます。コーヒーを飲むことを喜ばれる方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院より出ている薬の説明書は、一冊にまとめてスタッフがいつでも確認出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることはお願いしてスタッフと一緒に参加してもらっています。洗濯物干し、衣類たたみ、食器の片付けなど日常的にかかわってもらっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の方の気持ちが不安になり、気分転換をしたいときは、屋上に行くことがあります。また、地域の集いのときは、一部の入居者の方をお連れしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のお金の管理が出来る入居者に限られますが、希望により一緒に買い物に出かけることをしています。		



日限山ホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より許可を得られた時は電話をかけたり、携帯電話の使用しています。手紙の書くことがない入居者の方には、年賀状を書いてもらい、家族に送ることもしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きな窓があり、一日中、日が差し込めています。極力空調は使用せず、自然に近い気温の中で、着る服を調整してもらっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、食事用テーブル、ソファ、可動畳を配置して、入居者各々が好きな場所で過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときに、家で使用していた家具や道具を持ってくるようお願いしています。テレビ、ソファ、冷蔵庫等も好きなものを持ち込んでもらっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリー対応となっており、入居者の方は自由に移動できるようになっています。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所名

日限山ホーム

作成日

平成23年3月10日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	家族の意見や要望を気軽に話せるようにすること。また、家族間の交流が出来るよう家族会の開催を検討すること。	ご指摘の問題を解決する。	気軽に話しかけてもらうように、先ず職員の名前を覚えてもらうよう、名札を付けたり閲覧用の冊子を作る。また、家族の負担も踏まえ、運営推進会議への家族の参加者を拡充し、顔合わせの機会を増やしていく。	次回、外部評価、家族アンケート提出時。
2	9	アセスメントに利用者の生活暦を把握する項目を入れること。	現入居者を含めて作成し、全職員に周知するまでを目標とする。	現入居者の生活暦を本人や家族から聞き出し、表を作成し始めた。今後は繰り返し、確認しながら良いものを作って行きたい。	次回、外部評価調査時。
3	18	利用者の気分転換、健康維持のため、外出の機会を増やすこと。	ボランティア、家族の力を活用して、頻繁に外出する機会を増やしていく。	運営推進会議にて、協力を要請することとし、現在調整中である。少しずつでもボランティアを募っていくようにする。	次回、外部評価調査時。
4					
5					